



カウンセリングだより

保育観察エッセイ⑩

はったつがみえるよ!

～ぶんかのこどもたち～

キンダーカウンセラー
宮本 祐子

♪幸いにも、私はキンダーカウンセラーとして、子ども達の中に入って一緒に遊ぶことができます。

毎月1回の訪問で、触れ合う時間は限られていますが、頻度が少ない分、子ども達の成長を感じられることが多く、毎回生き生きとたくましく変わっていく姿がとっても楽しみです♪

1 学期の相談日は 4/23(月)、5/14(月)、6/4(月)、7/2(月)です。

となたでも、お気軽におこし下さい。

また、毎週火曜日に子育て支援室「ぶんかベビーカフェ」を開放しています。乳児の子育て中のお母さん、お茶を飲みながら育児相談や情報交換をして、ぜひ親子でリフレッシュしてください(´▽`)!

ご入園・ご進級おめでとうございます。色とりどりの花が咲き、春色でいっぱいの季節になりました。園庭や教室には新しい園児さん、進級されて一段とお兄さんやお姉さんになった園児さんの元気いっぱいの声が響き渡っています。新入園児の子どもたちにとっては、今までの生活とガラッと変わって、いつもそばで見守ってくれていた保護者の皆さんと別れて新しいお友だちや先生と一緒に生活が始まります。初めての新しい生活に戸惑うのは当たり前です。

保護者の皆さんにとっても朝のリズムが変わって忙しくなり「送り出した子どもが新しい生活になじめるだろうか」と、心配になりながら毎日を過ごしておられるのではないのでしょうか。新しいことに心配はつきものです。でも保護者の皆さんが不安に感じてしまうと、子どもたちに伝染しがちです。もし、幼稚園になかなか慣れず、毎朝別れ際に泣かれてしまったら気が滅入ってしまうお母さんも多いと思います。そんな時も保護者の皆さんは「うちの子は大丈夫!」と思って、明るく送り出してあげて欲しいと思います。明るく別れることで、子どもたちは自信を持って新しい生活に慣れていきます。

毎年、春の年少さんのクラスはとても賑やかです。みんなそれぞれ好きなことを好きなようにやっています。お友だちと隣同士であそんでいても、この時期の子どもたちは隣の子に話しかけるわけでもなく一人ひとり遊んでいる感じです。ですから、家に帰って『今日は誰と遊んだの?』と聞かれても「わからない」と答えることが多いと思います。子どもたちはまだまだお友だちの名前に興味を持っていない段階です。また、園庭で遊んでいて『お部屋に戻りましょう』と言われても、あそびを中断することが難しい子どもたちもいます。子どもたちは少しずつ少しずつ園の生活の流れを学んでいきます。そして園の生活に慣れて自分の居場所になっていくと、周りにも目を向けてお友だちの名前も覚え、さらに活発に活動していきます。

年中さんになると、年少さんの間にお友だちに関心を持つ力が育っているので、年少さんの時に同じクラスだったお友だちとあそぶばかりでなく、新しく一緒になった友だちとも「一緒にあそぼう!」と、自然に声をかけて遊べるようになります。

年長さんになると、幼稚園の一番大きいお兄さん・お姉さんになり、弟妹さんが入園する場合も多く、嬉しそうに小さい子どもたちの世話をよく見かけます。活動の幅が広がり、自分の得意なこと、苦手なことを意識するようになります。ご家庭でも、来年の小学校生活に向けて子どもさんの苦手なところが気になり、指摘してしまうこともあるかもしれません。幼稚園の頃の早い遅いは個性で、誤差の範囲です。子どもさんの性格を考え、気持ちに向き合いながら、苦手なことにも『最初から上手にできる人はいないよ』『○○するとうまくいくよ』『一緒にやってみようか』など励ましたり『よく練習しているからだんだんできるようになってきたね』などと、頑張っていることをほめてあげて欲しいと思います。

保護者の皆さま、子育ての中で「どうしたらいいだろうか」と聞きたいことや気になっていることがあれば、どんな些細なことでも構いません。話すことでご自分の考えに気づき、整理することにつながると思います。どうぞ気軽にお声をかけてください。

キンダーカウンセラーとして、園を訪問させていただいております臨床心理士の宮本祐子と申します。普段は大学の付属機関の心理・教育相談センターで、主に就学前～中学生のお子さんについて、保護者の方々に、発達及び諸々の相談をしております。毎月1回、蛭池文化幼稚園にて、保護者のみなさまがお子さんとうどう関わったらいいのかな? など子育ての心配や、ご自分について、またお子さんのお友だち同士の関わりや園での生活の心配などの相談にのらせていただいております。費用の方は幼稚園で負担しますので、保護者の方々の負担はありません。また、園児の保護者以外の方も参加可能です。おこしになるのが難しい方には、出向いて相談を受けることも可能です。どんな些細なことでも「ちょっと聞いてみたいね」「こんなときどうしたらいいから」というときに、お気軽にお越しください。